病気の子どもの状況

近年、病気で入院する子どもの入院期間は短期化の傾向にありますが、病気の種類によっては、長期間の入院治療を必要としたり、短期間の入退院を繰り返しながら治療を行ったりするケースもあります。また、退院後も定期的な通院が必要であったり、感染予防や生活管理が必要になったりする場合もあり、それぞれの病気の状態に合わせた対応が求められます。

病気の子どもたちは、自分の病気や体調、治療等についての不安から心理的に不安定になることがあります。入院が長期間にわたる場合には、学校を離れることによる学習の空白、自分が忘れられてしまうのではないかという友人関係への不安、さらに、退院して復学する際にも、喜びだけではなく、学校や学級になじめるだろうかといった大きな不安を抱えている場合もあります。

このような子どもたちを支えるためには、一時的な特別支援学校への転学、病院等への訪問による指導、ICTの活用による学校との交流や遠隔授業の実施、特別支援学校のセンター的機能による支援の活用など、多様な学習の在り方を検討することや、子どもの心身の状態に応じたきめ細やかな配慮等が必要となります。

病気の子どもへの担任や学校としてのかかわり方

病気の子どもたちが安心して学び、支援を受けるためには、次のような対応が求められます。

＊子どもの不安を理解し、病気の知識を持つ＊

病気になったときに子どもは、多くの不安とストレスを感じます。発達段階や性格、病気の種類や状態によって異なりますが、子どもの病気に関する知識とともに、心理状態を理解して心のケアを考えていくことが大切です。

あたたかい言葉かけ
やさしい見守り
⇓
安心感に包まれます

＊子どもや保護者と一緒に考える＊

病気の子どもとその保護者の思いに寄り添い、その思いを共有しながら、支援等について一緒に検討することが必要になります。子どもと保護者の意向、医療機関からの情報を確認しながら、必要な支援を考えていきます。

＊関係する医療機関や各機関等と連携・協力する＊

病気の状態や配慮点等については、関係する医療機関に確認することが必要です。学校と医療機関の連携・協力は、子どもと保護者の安心感を高めることにもつながります。また、福祉や教育機関等の各機関との連携・協力も必要に応じて行います。

＊個人情報の扱いに留意する＊

病気の子どもの支援を進める上では、担任や学校として得た情報の適切な管理が不可欠です。関係機関等と情報を共有する際には、保護者の了解を得て、必要な情報を必要な範囲内だけに伝えます。